

# 木全ミツの グローバル随想

## 第6回

### 女性の活力を社会の活力に ～認定NPO法人JKSKの発足



イラスト・題字：長峯亜里

高齢化が進む日本の社会を考えた時、「組織の長は60歳になったらそのポストを次世代に譲っていかないと、この日本の社会はじじばばの国になってしまう」という考えのもと60歳、現実には思うようにいかず63歳で現役生活にピリオドを打った。そして「この高齢化が進む日本の社会で60歳を過ぎた者はその後、社会とのかかわりの中でどのように過ごしていったらいいか」を真剣に考えた。

### もう男性に期待するのはやめよう

1990年～2000年は「日本の社会では絶対無理」と諸外国の友人たちから断言される中で、The Body Shop, Japanの社長を引き受けチャレンジし走り抜いた10年間であったが、世間では無責任に「失われた10年」などと諦めムードが漂い覇気のない時代であった。これからの日本はどうなっていくのか、我々はどのように対処していけばいいのかと友人たちと意見交換をするのだが、キャリア時代にいわゆる男女同権等の女性問題に関与したことがなかったため、意見交換できる私の友人は95%以上が男性であった。

私が持ちかける問いに対して男性の友人たちは「もういいじゃないか、僕たちは戦後のあの低賃金を強いられた時代から今日まで家族のため、会社のため（誰一人として社会のためとは言わない）にと死にもの狂いで働いてきた。そして世界第2の経済大国になるために貢献してきたではな

いか」。さらに「アメリカの51州目になってもいいではないか」とまでの発言には、もう男性に期待するのはやめようと思った。

他方、日本の女性の現状は……と社会を眺めてみると、大学進学率が世界第3位と言われるように高等教育を受ける機会は存分に与えられているけれども、国民の税金を湯水のごとく使って受けてきたその教育の成果を、生涯を通して社会にお返ししよう、そして社会の役に立つ人間として生きていこうという気概は見られない。人口の半分を占める「女性という人財」が全くと言っていいくらいに活用されていないことに驚愕した。

### もったいない歴史にピリオドを

日本の女性は他国の女性たちとは比較にならないダメな人間なのか。しかし、1000年前に清少納言、紫式部という日本女性が偉大な仕事をしてきた時代のイギリス女性の最高の職業は雑巾がけである……というある学者の論文に触れ、日本の女性が本質的に劣っていると考える必要はないと反省した。そして同じ志を持つ22人の老若男女の友人たちと、小田原のセミナーハウスで1泊2日のブレインストーミング合宿を行った。その結果、この日本の社会には男性に勝るとも劣らない素晴らしい能力をもつ国家資産ともいべき女性の人財が豊富に存在する、女性たちを社会のために活用してこなかったもったいない歴史にピリオドを打とうという結論になった。